

都市生活生協支援

第 8 号

1995. 6. 12.

# 救援ニュース

都市生活現地救援本部  
西宮市今津山中町9-9  
都市生活西宮センター内  
電話：030-618-1792

## 生協都市生活救援活動レポート 第3弾

尼崎支部 地域復興部会 小川令子さん

私自身、家が半壊し、小学校の体育館にいた時お世話になったので、少しでもお役に立てればいいなと思い、都市生活生協の仲間の何人かの有志と手弁当で炊き出しをしよう、ということになりました。都市生活生協に相談をしたら「救援物資として食材を提供します」ということで、炊き出しが始まりました。時期としては、家も落ちついて水も出だした、2月初め頃から行いました。

最初は、被害が大きいところということで、西宮市の方でやってたんですが、伊丹市でも、ひどいところが未だ何カ所かある、と聞きまして、伊丹市役所に訊ねたところ、あじさいセンターと池尻文化センターの2カ所は、未だ昼間でも40名以上の人達が避難しているということなので、地理的に近い、あじさいセンターに行くようになりました。

あじさいセンターには、とりあえず3日間、昼食の炊き出しに行きました。1日目は気付かなかったんですが、2日目には前日のおじやが余って、捨てられる状態でした。また、他の物資も余っており、生野菜をもらって掃ったような具合でした。西宮に行ったときは、足らないくらいで、みんなで分け合っていたのに、こんな状態でいいのかな、と思っていました。また、在宅の被災者のお年寄りや、登録をしていないからということで被災地から避難してきている息子の家族分を断られたりしていました。

本当は、救援物資の対象はあじさいセンターの被災者だけでなく、地域の方も含めてのものだったのに、地域の方は遠慮して来られないようになっていました。私が炊き出しをしていて、おばあさんに肉じゃがをあげたら、とても喜んでくれたんですが、そのとき、民生委員の福永さんと知り合って、「地域には、来たくても、来られない方もまだ一杯いる」ということを聞いて、あじさいセンターを離れて、民生委員の方たちの地域で、在宅の方に食事を作って持っていくかたちの、週1回の炊き出しを始めました。

初めは、私は福祉のことなど考えてもいませんでした。ただの、炊き出しおばさん

と思っていましたが、炊き出しをはじめてみると、在宅の被災者の方もたくさんお寄りまして、身寄りが少なく、お年寄りの方も大勢いました。お年寄りの方も、最初は遠慮がちでしたが、炊き出しの味付けを見てもらったり、野菜を切ってもらったりと、一緒に楽しくやっていました。

また、私たち都市生活生協のチラシを読んだ京都の大谷高校の先生が高校生を連れて手伝いに来てくれたり、また、その先生を通じて、中学校の先生が中学生の女の子にもボランティアを体験させたい、とのことで来てもらったりしましたが、みんな一緒になって楽しくやってきました。それ以外にも、炊き出しの時にトイレを借りているガソリンスタンドの方たちに、食事を届けたり、復興のために電気工事に来ている方や、消防署の方たちにも暖かいものをもって行ったら、大変よろこんでもらい、顔見知りになりました。

その他自治会の人達とか老人会の人とか色々な方たちと知り合いになりましたが、その時、炊き出しの材料はどこからくるか、とか都市生活生協のお金はどこからくるのかとか聞かれまして、副理事長の前川さんに都市生活生協の活動の説明をお願いしたこともありました。

この炊き出しは3月一杯やっていました。その後は、市の方で在宅の食事サービスを行うようになり、5月になってから、これからどうしていくかを話し合いましたが、取りあえず6月20日にあじさいセンターで70歳以上の方を対象に食事会をやることにしました。その時に、希望を聞いてから、その方達に一番合った方法でお手伝いをしたいと思っています。

私たちも、この食事会を通じて、仮設住宅の方たちとお年寄りを結んで、お年寄りの方に雑巾を縫ってもらって、それを仮設住宅に持っていくことで、地域の交流が出来ないか、とか、これまでやってもらった、炊き出しの時の味付けとか調理を手伝ってもらう、とか、“やってあげる・やってもらう”というものでなく対等の関係として、今後も地域の中で持続できる関係を作って行きたいと考えています。

もちろん、都市生活生協に協力をしてもらって、食材を提供して頂きたいと思っていますが、組合員の方に少しでも輪を広げていかないと、今いるメンバーの負担になってくる気がします。

持続していく関係を地域で作っていく必要を感じていますが、これは都市生活生協として、みんなで作っていくきっかけになればと思っています。

また、民生委員の福永さんから、社会福祉協議会にボランティアの登録をして、やってもらえないかと言われて、どうしたら良いのかも考えています。

都市生活生協に入って、自分だけが安全なものを食べているのではなく、福祉活動などと、大げさに構えないで、地域の復興のためにも、困っている方達のために、少しでもお役に立てたらと思います。

## 現地救援本部 INFORMATION

現地救援本部では、今後の予定やこれからの取組を広く知っていただこうと「救援ニュース」の中で“INFORMATION”を開設します。

これからの活動や取組の中で皆さんからのご意見や情報などもお待ちしておりますので、何かありましたら「現地救援本部」までお知らせください。

☞ 現地救援本部の専用電話の番号が変わります。6/14午後、工事を行い15日から使用出来ます。

新しい電話番号は 0798-36-6679 です。

☞ 皆さんの家庭で不要になった生活用品を、必要としている被災者の方にお譲りいただこうと「リサイクル生活用品登録」を進めています。ご協力下さい。対象品は、電気製品・寝具・自転車などです。

☞ 仮設住宅での生活に少しでもゆとりが持てれば、とKTH共同作業所と連帯して青空市で鉢植えのプレゼントを行ったところとても好評でした。他の共同作業所との連帯も含め今後も新しい企画に取り組みたいと考えています。

☞ 今後の予定

- 6/13 西宮中央図書館炊き出し 被災後定例的に行っています
- 14 尼崎市高田公園仮設住宅にて昼食会兼青空市  
現地救援本部専用電話番号変更 上記案内です
- 15 西宮中央図書館炊き出し 被災後定例的に行っています
- 18 魚崎小学校にて交流会
- 20 伊丹あじさいセンターにて在宅高齢者交流昼食会
- 21 ポートアイランド仮設住宅にて救援青空市（予定です）
- 25 芦屋山手中学校内仮設住宅に住まわれている方との交流会を行います。

## 現地救援本部新スタッフ紹介

ひぐま けんいち

**日隈 健一** (29才) グリーンコープ生協おおいた

グリーンコープの助っ人部隊第3軍です。「被災地まで行って自分が何を出来るのか、本当に役に立つのか」などいろいろ考えましたが、あまり考え過ぎると落ち込んでしまいそうなので、「少しでも力になればそれで良いじゃないか」と考え直してここまで来ました。とにかく少しでも早く現地の空気になじんで自分が出来ることを見つけだし、帰った後に「来てくれて良かったネ」と言われるように頑張ります。まずは足手まといにならないようにしなければ・・・。

今回“救援本部”に参加できたことは、自分の今後の生活にも大きな記憶となって残ると思います。勉強の意味も含めてこの2週間を過ごしたいと思います。

しげり さとし

**重盛 智** (29才) 生活クラブ埼玉

2週間という短い期間の派遣。私の出来ることは、ここで皆さんの力になること。それ以上に、埼玉という遠い街から被災地にたいして何が出来るかを考えて来いということだと思っています。

「忘れてないよ、応援するよ」という生活クラブの組合員のメッセージをもってやって来ました。

